

【2023年6月の注意点:ワクチン後免疫低下症、梅雨・台風シーズン(カビ・ダニ・各種感染源活性化)、気象病】

今年の5月は全国各地で地震が多かったですね。黄砂も例年より長引き、5月下旬になっても富士山に冠雪が残っていたのも久しぶりのことでした。ここ静岡もいつ大きな地震が来るかわかりませんが、備えあれば憂いなしですので、防災備品の見直しは適宜行っておきましょう。(塩・砂糖・ミネラル・水は必須です)

そして 5~10月は、北半球において太陽が強くなる時期です。太陽エネルギーの異常は、登録すれば「宇宙天気予報」サイトから送られてきますが、何も連絡が来ない日はないですから、宇宙も穏やかではないみたいですね。

自分たちの生活において、省エネやエコを意識して無駄のない生活を心がけることは、限りある地球資源を次の世代に引き継ぎ守るために大切なことですが、地球温暖化による世界各地での異常気象の大元は、宇宙最大の電磁波源である太陽エネルギーの増大ですから、根本的にはどうしようもありません。もし宇宙開発事業がその助けになるのなら話は別ですが、人間が太陽に勝てるとは…思えません。

5月以降の北半球においては、とにかく太陽からの磁場エネルギーが大きく強くなりますから、普段から「電磁波キャパの小さい人」は、自分で調節できる電磁波＝家電の使用時間・頻度を意識的に落としておくといでしょう。

「太陽+家電+人間(対人ストレス)」で、自分の電磁波キャパ(許容量)を超えれば、それを引き金として、各種潜在感染源が活発化し、急性炎症、および慢性炎症の増悪を全身性に起こします。宇宙磁場対策の消炎剤(タイレノール)や、感染対策のハーブ(金時生姜/ニンニク/ヨモギなど自分に合っているもの)や、クエン酸、その他抗生剤各種を使える人は使って、とにかく不快症状は「ボヤのうちにまず消しておく」ことです。

「まだボヤだからもっと火が大きくなるまで様子を見ようね」と火事の時には絶対に言いませんよね。心身におこるどんな症状も考え方は火事と全く同じで、初期消火と予防対策が重要なのです。まず違和感があつたら、見過ごさないこと。何を使ってもいいので、ボヤのうちに消す、これが鉄則です。そして、消したらおしまいではなく、なぜボヤになったのかを調べ、再発予防策を講じ、根本解決のための施術・処置を済ませておくことが「自分は自分が守る」という事に繋がります。自分の第一主治医は自分自身(子供なら親御さん)ですからね。

今年に入ってからご家族を比較的早い経過で亡くされた、また仕事中に家族・同僚が突然倒れて…という話を複数耳にしております。また4・5月、特にGWあたりから、ヘルペス・带状疱疹・顔面神経麻痺・風邪が治らない・激痛・急性蕁麻疹・失神発作など、普段体調コントロールができていた方には起こりえない症状もよく耳にしていました。

何か皆さんの免疫系が異常事態に陥っているというか、平常ではない何か「違和感」を強く感じています。そこで当院では、2年ほど前に施術をしている「新型コロナワクチン各種」のアレルギーを再確認しています。

自覚症状の有無にかかわらず、アレルギーがある方は、まずそちらの除去を優先いたします。ワクチンを打っている方も、打っていない方も、新型コロナワクチンにアレルギーがあれば、周囲の人が体内に持ち続けているであろう新型コロナワクチンのエネルギーに反応してしまいます。その症状が何に出るかは、その人の普段の体調管理次第です。

新型コロナワクチン接種を行っている方は、普段にないちょっとした不快感・違和感も無視せず、何かあればすぐ病院で診てもらいましょう。特に酒・たばこが習慣で、処方薬を常用し、過剰なストレスを抱えているような酸性体質の方は、弱アルカリ対策と自己尿でのゲートマッサージでリスクを回避しておかれることを強く勧めます。

アレルギー除去をしないでワクチン接種をされた方は、最低限の栄養素の施術と自己尿の施術を優先し、許可が降り次第、新型コロナワクチンのアレルギー除去を行うことができます。気になる方は、自分や家族に「万が一」が起こる前に行動しておかれるといいでしょう。自分の物差しは、常に自分自身が「反省しても後悔しない」でなければいけませんからね。

梅雨入りの発表も先日されましたが、梅雨前線や台風による湿度によって寒暖差が生じます。室温管理は温度ではなく湿度で判断されるといいでしょう。自律神経のバランスを崩して寝込まないよう、もうしばらくは体温調整が上手くできるような衣類でお過ごしください。

汗をかく時期になると、汗と共に出て行ってしまうため、塩とトレースミネラルが皆さんかなり不足しています。アレルギー除去を済ませていれば塩を摂りすぎることはありません。余分な塩分は尿・便・汗から排泄されます。美味しいと思う範囲で米や糖類(芋・豆腐・根菜)入りスープにはしっかり塩を効かせて美味しくいただきます。一般的な海水塩のように、塩辛いと米にたくさんかけられませんから、米にはピンク岩塩(鉄が入って甘い)がお勧めです。

「塩は糖と水と一緒に摂ることが大事」ですので、塩だけ舐めてもあまり効果はありません。白米以外にも、おかゆや重湯に塩、スイカに塩、お芋に塩、トウモロコシに塩といった具合に、水分・糖分と共にしっかり塩が摂れるよう意識しておきましょう。もちろん塩はタンパクが足りていないと使いこなせませんから、タンパク不足が熱中症のスタートになりえます。食欲がないときには、冷たくて甘いものを先に少し摂ってから、無理なく食事をしたらいいですよ。

汗をかく時期によくこむら返りを起こす人がいます。塩不足・カリウム不足・マグネシウム不足・トレースミネラル(ミネラル各種)不足などがまず考えられます。カリウム補給はサプリメント・ドライフルーツ・海草類で、マグネシウムは海藻・豆類、もしくはマグネシウムは経皮吸収に適しているの、エプソムソルト+塩入浴・エプソムソルトクリーム・マグネシウムオイルなど、自分に合っているものを探してみてください。どれを使っても変わらない場合は、そのほかの理由(寝室環境;温度・湿度・衣類・帯電、寝具やベッドのアレルギー、枕や敷布団のカビなど)を探し、対処しておきましょう。枕は最もカビやすいところです。汗かきの人は、安めのポリエステル枕をこまめに交換したほうがいいでしょう。洗える枕も乾燥に時間がかかってはカビますので、コインランドリーをうまく使っていきましょう。

台風2号+梅雨前線による大雨の影響はありませんでしたか？台風=大型低気圧ですから、気象病の傾向がある人は、早めにタイレノール(宇宙磁場対策)と共に重曹カプセルを使っておきましょう。それでも改善なければ、前出の感染対策でボヤのうちに対処しておきましょう。(漢方の五苓散も水を調節して、気象病に効く人もいます)

何かにつけて「めまい」が起きやすい人は、重曹を胃に届けたほうがいいのか、腸に届けたほうがいいのかによって、摂取方法を変え、使い分けることができるといいです。めまいや緊急時に病院で使うメイロン注は、「重曹の点滴版」ですし、がん・腫瘍の縮小目的で重曹を大量に使う方法もあります。一方、感染対策にはクエン酸のほうが有効な人もいますので、その時の自分には何が必要かを見極めて、基本的な弱アルカリ体質による体調管理(朝一番尿のpH7.4以上、起床時体温36.5度以上)を心がけましょう。何事も頑張りすぎない、無理しないことが大事ですね。

野山や畑に行く機会もこれから増えると思います。イカリジンを服の上からスプレーし、できるだけ素肌を出さないように(特に足元)気をつけましょう。トンボは虫たちの天敵ということで、リアルな作りの「トンボの虫よけ」を玄関先に吊るしておいてもいいですね。また屋外において、やけどするほどの太陽の浴びすぎはいけません、心地いい程度に日光浴ができれば、免疫にかかわるビタミンDの体内産生にも役立ちますので、身体をこれから来る暑い夏に慣らしていきましょう。